

そう だい かみ ゆうじん よろこ た ひと つた
総 題 「神のためにたくさんの友人をつくる（喜びを他の人に伝える）」

だい か かか も しげきてき ほうほう
第10課 関わりを持つための刺激的な方法

まつた けん
松田 健

あんそくにちごご
1. 安息日午後

わたし こじんこじん かみさま あか きよ せいかつ とお かみさま すく あか せんしゅう
私たちは、個人個人が神様を証しするために清められ、生活を通して神様の救いを証しできることを先週
まな
学びました。

こんしゅう ちい あつ こうかてき ひとびと かか まな しょう
今週は、小さなグループ（集まり）によって効果的に人々と関わっていくことについて学びます。また小グ
グループ伝道の聖書的根拠（基本）に焦点を当てて（集中して）いることを覚えましょう。

にちようび しょう どうしょ かみ かんが
2. 日曜日：小グループ～当初からの神のお考え

きょう さんみいったい しんび にんげん ちえ すべ りかい しょう きそ まな
今日は、「三位一体」という神秘（人間の知恵では全てを理解しきれないこと）から小グループの基礎を学んで
います。

しょう い きょうどうたい あつ
小グループとは、言わば共同体（集まり）でありコミュニティーです。

わたし かみ ちち こ せいれい ゆいいつ かみ
私たちの神は、父と子と聖霊の唯一の神です。

そうせいきいっしょう われわれ に ひと つく かみさま すがた きろく
創世記1章でも「我々に似せて」人を造られた神様の姿が記録されています。

ちち こ せいれい かみさま じんるい きゅうさい ひと いぜん ひと やくわり
「父」と「子」と「聖霊」の神様は、人類^{※1}救済のために1つとなって（それ以前から1つでした）、^{※2}役割
を分担され、共に働かれました。

こんしゅう さんみいったい かみさま ふか せいしよ まな どうじ わたし じんるい きゅうさい
今週のガイドでは、この三位一体の神様について深く聖書から学ぶと同時に、私たちも人類^{※1}救済の
かみさま はたら ひと とも はたら とき きょうどうたい あつ はたら よろこ し おぼ
神様の働きと1つになり共に働く時に、共同体（集まり）として働く喜びを知ることができることを覚え
ましょう。

さんこう しんと てがみはっしょうじゅういっせつ よ かんが
参考に、ローマの信徒への手紙8章 1 1節を読んで考えてみましょう。

いちきゅうさい すく
※1 救済（救い）

やくわり ぶんたん はたら わ
※2 役割を分担され（働きを分けて）

げつようび せいしよ なか しょう
3. 月曜日：聖書の中の小グループ

しゅつ きじゅうはっしょうにじゅういち にじゅうごせつ よ くだ
出エジプト記18章 2 1～2 5節を読んで下さい。

ぎふ ちえ ぜんたい おお えいきょう きろく
ここでモーセの義父エトロの知恵がイスラエル全体とモーセに大きな影響があったことの記録があります。

よう ざり むすこ おく こうかてき ほうほう
なぜ、エトロはこの様なアドバイスをわざわざ義理の息子に贈ったのでしょうか？ それは「効果的な方法ではな

い」からでした。

彼らに与えられた10人前後の小グループは、「問題解決の場」であり、「交わりの場」「未来を語る場」でもありました。

イエス様も12弟子たちを集めて※3宣教という※4使命のために送られました。「チーム」「共同体」「グループ」など呼び名はたくさんありますが、同じ使命のために共に働く共労者(者たち)が与えられるのは良いことだけでなく、神様の計画と言えるでしょう。

※3 宣教 (キリストの教えを広める)

※4 使命 (命令された奉仕や働き)

4. 火曜日：奉仕のために組織化する

1コリントの信徒への手紙12章12～25節には、キリストの体としての教会組織について教えています。

ここ(教会組織)で注意しなければいけないのは、25節に書かれている言葉です。「それは、体の中に分裂がなく、それぞれの肢体が互いにいたわり合うためなのである。」12～25節の聖句は私たちが考える以上に大切なことを教えて下さっています。

私たちは組織を守るために、それぞれ(聖歌隊など)のグループがあるのではなく、互いにいたわり合うためにお互いが存在しているのです。つまりグループが互いの弱さを補い合い(支え合い)、愛のグループによってキリストの体を世に表すことが目的です。

1コリントの信徒への手紙13章は有名な「愛」についての御言葉です。

小グループはキリストの※5愛を実践する、※6それぞれの役割を持った大切なキリストの体だと言えます。

是非、「教会への証」第7巻21～22ページ(『聖書研究ガイド』70ページ下から2段落目)のエレン・G・ホワイトの言葉をじっくり考えてみて下さい。

※5 愛を実践する(愛する)

※6 それぞれの役割を(それぞれの働きを)

5. 水曜日：新約聖書時代の小グループ

ルカがパウロと一緒に働いていた人たちの名前を挙げていたほどに、一人一人の働きを重要視していたことは、とても考えさせられます。新約聖書時代も、クリスチャンの家が、地域奉仕センターや小グループ伝道の中心地となっていましたと書かれていました。

現在、中国では「家の教会」が爆発的に増えているそうですし、このコロナの状況下においてアメリカのある教会は全体で集まることを止めて10名ごとの小グループで礼拝や聖書研究、また伝道活動を行うようになっていっているそうです。何が神様の御心かを考えさせられますし、何が今の時代に有効であるかよく観察し、聖書から学ぶ必要があるでしょう。

6. 木曜日：小グループの力

「初期のクリスチャンたちは集まると、ほかの人のために※7執り成しをし、互いの心配事について祈り、温かい交わりを共有し、神の言葉を学び、奉仕に必要な力を身につけ、偽りの教えから互いを守り、ともに伝道活動に参加しました。

小グループは変化をもたらします。

奉仕において自分たちの※8賜物を結合させ、伝道のために聖霊の力を※9重視する人々は、主のみ手の中の強力な武器です。」(今期の『聖書研究ガイド』72ページ問8の後の文章)是非、問8で書かれている聖句を見て下さい。

今週の暗唱聖句は、大切なことを私たちに教えてくれます。

「収穫は多い」のです。たとえ「働き手が少な」くても、「収穫の主」に願えば、必要な働き手を与えてくれます。それは働き手が複数(2人以上)与えられるのであるから、私たちは共同体(集まり)として集まり、働くことを勧めています。

私たちと共に働いてくれる働き手は、私たちの※10部下ではありません。共労者(共に働く者)です。そして※4使命は私たちからではなく、神様から与えられているのです。謙虚に、神様に求めることを※11怠らないようにしたいですね。

※7 執り成し(他の人のために、神様に許してくださいと祈ること)

※8 賜物を結合させ(才能など神様からのプレゼントを合わせて)

※9 重視する(とても大切なことと受け止める)

※10 部下(自分の命令を受けて動く)

※4 使命(命令された奉仕や働き)

※11 怠らないように(真面目にやるように)

7. 金曜日：さらなる研究

話し合いのための質問③について考え、またグループで話し合うことをお勧めします。

そして神様が私たち共同体(集まり)に何を求めておられるかを聖書からもう一度教えてもらい、分かち合いましょう。